



## 7. 池上彰氏との対談（2019年1月～3月）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辻, 洋 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/16373">http://hdl.handle.net/10466/16373</a>

## 7. 池上彰氏との対談 (2019年1月～3月)

1月1日 新年あけましておめでとうございます。

皆様にとって、健康でよい年でありますように。私生活では、釣行する機会がめっきり減り、野菜作りでリフレッシュしています。



1月2日 (4) 荒川哲男大阪市立大学長との連携



昨年を振り返る四番目の出来事。今年の4月に法人統合する。一つの法人が二つの大学と一つの高専を設置する。外から見ると法人統合しただけでは、大学も高専も変わらないので学生からみると変わりはないが、経営母体が一つになる。

その準備のために大阪市立大学の荒川学長とは頻繁にお会いした。府市からは「三年後に大学統合ができるように準備せよ」との指示を受けているが、両大学がそれまでそれぞれ個別に（単独でも）プレゼンスを高めることが必要だ。荒川先生は facebook に英語や中国語で投稿されている。内容も体裁も見習うべきところが多い。

一方で、すでに両大学では、リーディング大学院で学生を一緒に教育している。このプログラムは学外から高く評価されていて、誇りとしている。

そのほか、地域再生プログラム、観光学の大学院生指導、被災地へのボランティア派遣、留学生の弁論大会、単位互換、図書館などの施設の相互利用、職員の合同研修でも組んでいる。合同プロジェクト、連携プログラムの全体像を（1）すでに着手したもの、（2）近く着手するもの、（3）課題を整理してから着手するものに色分けして進めている。

このように学生にとってよい学びの場、教職員にとってよい職場になるよう全力を注いだ一年だったが、政治の影響を受けたのは間違いない。将来どのように評価されるだろう？



1月3日 (5) 自然災害に学ぶリスク対策

昨年を振り返る大きな話題の五番目。大阪北部地震の時には、御堂筋線の大国町駅に停車中の地下鉄車内において、スマホのアラームとともに激震に襲われた。すぐ、大学の近くに住んでいる職員に連絡をとり対応をお願いした。当日、たまたま職員グループが校外の清掃ボランティアをする日で多くの職員が大学に来ていたので安否確認がうまくいった。



西日本集中豪雨の時には、阪急電鉄の神戸線が不通となり、帰宅難民になった。雨の中徒歩で帰る経験をした。学生・職員の有志が総社市、三原市に出かけ、炎天下でボランティア活動をしてくれたことは誇りだ。



台風 21 号の時には自宅が長時間停電になりエネルギーの有難さを改めて感じた。大学では、キャンパスの多くの樹木が倒壊したばかりでなく、関西国際空港の閉鎖により多くの教職員や学生の渡航・帰国にも多大な影響を受けた。関係者が多様な対応をしてくれた。

これらから何を学ぼう？自然災害だけでなく、大学には多くのリスクが潜んでいる。リスクの大きさ、発生する頻度、制御（事前対策含む）

の可否などマップをつくって、それらを関係者で常にレビューし続けることが大切だと思う。災害が起こった時に被害を少なくするようにしておくこと、それを学ぼう。

#### 1月4日（6）働き方の見直し

昨年を振り返る 6 件目。私が大学に入学したのが 1972 年。高度経済成長時代だ。製造業の会社に入ったのが 1978 年。社宅や寮などは、物価が毎年すごい勢いであがることもあり、会社では社員確保のためだけでなく投資としても用意していたのだろう。充実していた。社員の研修も充実していて、即戦力を新人に求めるのではなく、終身雇用、年功序列の人事制度だった。

大学の進学率も年々高くなり、車を所有する人も増え、一家にあるエアコンの数も増えた、成長時代。大学で教えることも学ぶことも「成長」を前提としていた学問だったかもしれない。

当時の社会が「成長時代・開発・消費時代」とするとこれからは「成熟時代・持続・循環時代」。小宮山先生からは飽和時代という話を聞いたこともある。誰もが時代の変化を理解する一方で、いろいろなトレードオフが起こっていて、悶々としている時代のように思う。

大学に対する運営費交付金の削減が研究力を落としているという声が多いが、同じいやそれ以上に「矛盾した国からの指示」が研究力を落とさないか危惧される。

文科省の視点からは、教育の質保証・多様な入試を求められ、幅広い教養教育・グローバル教育が求められる一方、国家試験に関連する厚労省からは実習の充実、専門教育への特化が求められる。同じ厚労省からは、健康面から労働時間に厳しい管理を求められる一方、大阪府からは予算を厳しく管理され、人員を増加することは難しい。

会議時間短縮・コピー量削減とか「寄付を集めよう」と声をかけたりしているが、去年は効果は全く出なかった。働き方の見直しはできなかった。力不足で申し訳ない。ワーキングシェアへの方向は合意されるだろうか？



## 1月5日（7）キャンパスのグローバル化

昨年を振り返りつつ、今後を考える7件目。ここ数年、交換留学生や短期招へい学生を含めて留学生は300名弱。8000人近い学生がいる中でこの数字をどうみるか？研究型の国立大学では、大学院生が多いということが一つの理由であるにしても10%に達しているという。本学が研究型大学として運営していく上ではこの数字は何とも心もとない。

いきなり比率をあげることは現実的ではない。では比率をあげるために、いや比率があがっても対応できるためにはどうしておけばいいか。そんなことを考えてきた。国際交流や留学生対応の担当者だけがグローバル化を考えるのではなく、教職員全員で考えていく必要がある。職員を海外研修に出す、さくらサイエンスプランという国の制度を利用してアジアの若い人を招へいし府大生と交流する場を設ける、米国の大学を府大キャンパスに誘致し府大生をバディとして交流させる、こんなことに力を入れた。身振り、手ぶり、ボディランゲージでもコミュニケーションはとれる。

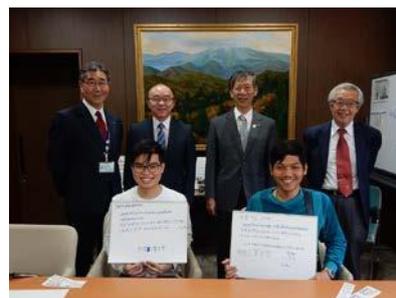
ひとたび、コミュニケーションがとれれば、今の時代、ITを使ってそれを継続することは容易なはずだ。「世界に翔く地域の信頼拠点になるには」ということをみんなで考えてほしい。

## 1月6日（8）留学のすすめ

私が高校生時代には、固定為替制度で1ドル360円だった。海外に行くなど夢のまた夢。33歳になってはじめて米国に行った。そのとき1ドル148円。帰国した時には123円だった。LCCなどもなく、ネットで便のスケジュールや価格を調べることのできない時代だった。

先方にアポを入れるためには航空郵便。先方に届くのに一週間、返事をすぐ書いてもらってもそれが届くのにさらに一週間。私の時代でさえ、出張には手間暇がかかったのに、昨年、「西郷どん」をみていたが、明治時代の人はどうやって海外出張のプランをしたのだろうかと思議に思った。

さて、海外に出たら、少しでも伝手をたどっていろいろなところを訪問するのがいいと思う。府大のOBで海外勤務している人も多し。留学生OBで母国に戻って活躍されている方も多し。府大の教員が以前に滞在した海外の研究機関も多し。こういう情報をどうやって共有し、活用していくかは私が学長になって以来の課題であり、また、海外ネットワークの構築は Greater OPU として今後も課題でもある。



いくつかやっていくことを決めた。一つは、グローバル特待生という制度。最初の特待生を任命した。

文科省のトビタテ！留学 JAPAN には応募する場合には、以前合格した経験者に後輩を指導してもらっている。また、合格者には時間の調整がつく限り、出発前と帰国後に会って、いろいろ提案を聞くことにしている（写真）。先日も出発前に面談して私のネットワークを紹介したオレゴン州立大学に留学中の学生から連絡をもらった。

さらに、大学の支援を受けて留学に行った時には必ず体験記を書いてもらうことだ。もし、まだ書いていない学生さんは、今からでもいいので国際交流グループに届けてほしい。

### 1月7日（9）大学と高専との連携

2011年から、大学法人が大学と高専を設置して運営している。大阪府立大学工業高等専門学校が正式な名称だ。私は入学式、卒業式に招かれているほか、特別講義をさせてもらっている。

中学卒業後に入学し、5年間の教育を受ける。

国立と公立と私立があり、近くには国立の奈良高専、公立の神戸高専、私立の近大高専などがある。高い就職率・求人倍率に見られるように、社会から高く評価されており、産業界から一定の評価を受けている。一方で、大学に編入して活躍する生徒も多く、府大への編入枠を設けている。

一昨年は、私が月に一度高専に行きいろいろな意見を聞いた。昨年は多くの教職員に高専に行ってもらってそれぞれに連携を考えてもらった。今年は高専主体で計画し、大学がそれを受けるあるいは支援するという形で連携を深めていく。

### 1月8日 当面の予定

今週金曜日には、東京の日経ホールで池上彰氏司会のシンポジウムに登壇する。何人かの研究室の卒業生や前職時代の同僚から「応募して抽選に当たったので行くよ」という連絡をもらった。ネットでリアルタイム中継され、アーカイブとしても発信されるそうだ。

発言に気をつけなければならないが、日ごろ考えていることを率直に話してこようと思う。

これから三か月は入試や定期試験が続く。ミスがなくて当たり前。リスクをよくチェックして「想定外」をなくすよう徹底する。

1月9日 陵友会新年会@ハービス大阪

11日 日経主催大学改革シンポジウム@日経ホール、同日 霞が関同窓会



- 1 7 日 九州工大・経営協議会、1 9 日ー2 0 日 センター試験（関係者以外入構禁止）
- 2 3 日 新大学推進会議@あべのメディクス、2 4 日 公大協 理事会・学長会議@学士会館
- 2 月 4 日 バイオメディカルフォーラム@学术交流会館、1 1 日 東京同窓会・新年会
- 1 3 日 校友懇話会@ハービス大阪、2 5 日 前期入試、2 7 日 新大学推進会議
- 3 月 8 日 中期入試、9 日 校友会理事会・評議員会@I-site なんば
- 1 0 日 大阪検定客員研究員発表会、1 1 日 関大・市大・府大連携推進協議会
- 1 2 日 後期入試、1 5 日 高専卒業式、2 4 日 学位記授与式、2 9 日 辞令交付式

1月9日 (10) 大阪の活性化を目指して：万博決定

昨年を振り返って今年を考える最後の10件目。今年6月にG20サミットが大阪で開催される。世界から大阪が注目されるだろう。そういう意味では、大坂なおみさんが活躍し、Osakaという言葉が世界でも連発されたことは嬉しい。

今年7月ごろには、大阪府で最初のUNESCO世界遺産となる百舌鳥古市古墳群の決定がなされる。ぜひ決まってほしい。決まれば大学周辺も活気づくだろうし、学生たちにもいろいろな国際交流の機会が高まるのではないだろうか。

2025年には万博がくる。大阪市大の荒川学長からは、学生主導・大学支援で何か府市に提案ができないかとの相談が来ている。在学生在が完全に卒業している2025年のことに学生は興味をもってくれるだろうか？

先の万博は、成長・開発時代。次の万博は、成熟・持続時代。「いのち輝く未来社会のデザイン」。このテーマをいろいろな角度から議論して、教育・研究・社会貢献に取り組んでいきたい。

1月10日 冬の中百舌鳥キャンパス

ずっと以前は総合科学一号館、最近ではA1棟と呼んでいた旧本部のあった建物。老朽化が激しく一年前から使用を停止しており、撤去も大詰めになってきた。

三方向から写真を撮ってみた。プロセス横から撮ったA2棟跡地、夕日の手前のA8棟跡地とともに。

多くの方がこの地で学んだんだろうとか、何年か経ったらこの地はどんな学舎になっているのだろうかとか想いにふけてしまった。ハードとしての建物だけでなく、ソフトとしての教育内容についても。成長・開発のための教育ではなく、社会の持続性を重視する教育になっているだろう。

あと10日足らずでセンター試験。受験生は体調を万全にして臨んでほしい。



1月11日 アフリカに貢献することを夢に

11月に開催された「保護者のための就職・キャリア講演会」に登壇してくれた原元さん。経済学部の卒業生で、デロイトトーマツでご活躍。

年末に学長室を訪ねてくれた。彼女は中学生時代の教科書に載っていた「ハゲワシと少女」(ピュリツァー賞受賞)の写真に衝撃を受け、この少女を助けなければならないと思ったという。そのためには英語が話せなければとご両親を説得して高校時代に留学。英語が話せるようになったのちには、経済のことが分からねばと帰国生徒特別選抜のある本学の経済学部(現:現代システム科学域マネジメント学類)に入学。

在学時に東北大震災が起こり、そこにボランティアに行き、多くのアクティブな府大生らと交流。ボランティア・バスの派遣を行う。次に考えたのが、経済学でも国際経済を学ぼうとすると本学では不十分で神戸大学に進学。コンサルティング会社に勤務してアフリカ案件に近づいてきたという。

モチベーション(目標)をもってそれに近づくために何をしなければならないか(手段)を着実に獲得していく。そういう姿勢に感銘を受けたので許可を得て紹介する。

詳しい話は後日在学生にインタビューしてもらってMICHITAKEに掲載してもらうことにするとともに府大広報グッズをプレゼントした。Greater OPUの一員として今後も府大の広報にも貢献してほしい。



1月12日 日経主催シンポジウム&同窓会出席のお礼

今週は、9日に陵友会(経済学部&マネジメント学類同窓会)新年会があり招待され参加した。31名の参加。30分ほど話す時間をいただいたので、11日にある大学改革シンポジウムの練習とすることをご了解いただき、企業人から大学の役員になったの取り組みや感想を話した。お付き合いいただき感謝している。

11日にはその本番。詳細は日経誌に後日記載されるほか、アーカイブも公開される。研究室の教え子や府大関係者、日立時代の友人・後輩も来てくれていたが、直接新年の挨拶や参加のお礼を言えなかった方もおられる。ライブ中継を見てくださった方からも連絡を頂いた。この場を借りてお礼申し上げる。シナリオがない中で、池上彰さんからいろいろな話を振られ、いくつかの話題には「質問の回答になっていないなあ」と思いながら話した。後日アーカイブを見て反省(弁解?)したい。

シンポジウム後は、国家公務員として霞が関で勤務されている府大OB(教職員OB含む)と同窓会。多分5年目になると思う。少しずつネットワークも広がってきた。ありがたい。



1月13日 継続により道が拓ける@大森貝塚

上京して品川に宿泊した。京浜東北線で二つ目が大森駅。前職時代出張で何度も通った場所だ。教科書で出てきた貝塚だが、当時訪れることがなかったので、今回行ってみた。ひとつひとつの貝は思っていたものよりかなり大きい。昔の人は大きな貝を食べていたようだ。



この大森が日本考古学発祥の地と言われているが、モース博士は移動中の車窓から「貝の堆積層がある」とたまたま気づいて発掘調査が始まったという。「自分のもつテーマを常に考え続ける」ことの大切さを気づかせてくれる。なにごととも継続していると、道が拓ける出会いがあると思いたい。

### 1月14日 なまはげ太鼓演舞に見る少子高齢化

昨年ユネスコ無形文化遺産に登録された「男鹿のなまはげ」が出張してきたというので見に行った。ネットの範囲だが少し調べてみるともともと来訪神だったのが鬼化したとあり、赤がジジナマハゲ、青がババナマハゲで一対で動くそうだ。今回は白マナハゲもいた。すごい形相だ。

力強い太鼓演舞だったが、これは平成になってからの観光化に対応したものでリゾートブームの波で「新たな芸能」として創作されたという。だから太鼓演舞が無形文化遺産に登録されたわけではなさそうだ。

元々若い独身の男性がなまはげを務めていて、町内の戸別訪問をして厄払いをしたり子供を諭すことをしていたのが、若者は都会に行き、地元は高齢化で担い手が激減。少子化の影響で諭そうにも子供がいないというのが最近であり、これを後世に残すには遺産登録するしかないのだろう。そして、生き残るには環境の変化にあわせて自らが変わっていかなければならない。その一例を見たような気がする。



### 1月15日 サーカス見学

三連休の最終日、「うめきた」に来ている木下サーカスショーを見に行った。梅田公演は20年ぶりだという。すごく賑わっていた。コンテンツが豊富であつという間の二時間だった。とても楽しめた。

調べてみると同族企業で現在の社長は四代目。一時は大きな負債をかかえていたのを、時代に合わせた変化を取り入れ、驚異的な観客動員力を得ているという。ここでも変化に対応するものが生き残るという例を見た気がした。



### 1月16日 受験生のための情報

本学では、学びの領域を大きくりにしている。現代システム科学域、工学域、生命環境科学域、地域保健学域だ。このようにしたところ「府大で栄養学を学べますか」とか「心理学はどうなんだろう」という声を受験生が聞くことが多くなった。

そこで高校生が関心をもっているというキーワードから本学の学びを調べられるようにしている。

今週末はセンター試験。風邪がはやっていると聞く。受験生はもちろん、試験監督や会場案内に立つ教職員も体調を整えて当日を迎えてほしい。

### 1月17日 受験生のための情報

横綱稀勢の里関、引退お疲れさまでした。今場所は大変なプレッシャーの中だったと推察します。

さて、未知を知って(take)！「満ちていく」、本学 web マガジン「ミチテイク・プラス」。

<http://michitake.osakafu-u.ac.jp/>

広報課と学生広報誌「ミチテイク」編集チームの学生が共同で取材・執筆する Web マガジン。かなりのコンテンツ量になってきた。本学の研究、教育、キャンパスライフ、社会貢献、ひとにスポットをあてて情報発信している。

学外の方だけでなく、学内の方に向けても(なぜそんなことをしているのか、何をしているのか、いつ?どこで?どのように?)を紹介し続けている。

関係者の努力に感謝したいし、全員広報宣言をしているので、今後も皆で府大のすばらしさを発信していきたい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

### 1月18日 受験生のための情報

昨日17日は、阪神淡路大震災が起こってから24年目。当時、大きな地震が来るとしたら東海沖と信じ込んでいた。だから、大きな揺れを感じた時「関西でこんな大きいので、関東ではどうなっているだろう」というのが最初に頭をよぎった。今は、どこにでも大きな災害のリスクがあるというのは誰にとっても同じだろう。

さて、受験生のための情報の第三弾。スマホ向けではなく、PC向けの情報。教育PROという雑誌の2018年2月27日号が大阪府立大学の特集。多くの中学校・高校へ配布された。発行元の許諾を得て、全ページをデジタルパンフレットで公開している。

-----目次-----

#### ◆座談会 (P2~)

—辻洋学長と大学の未来を語る—

「大阪府立大学の新たな挑戦— “世界に翔 (はばた) く地域の信頼拠点” をめざして」

〈出席者〉



辻 洋（理事長・学長）

真嶋 由貴恵（ダイバーシティ研究環境研究所長、現代システム科学域 教授）

清水 乃有（IRIS メンバー、工学研究科 電子・数物系専攻 博士前期課程 1 年）

丸本 萌（IRIS メンバー、理学系研究科 生物科学専攻 博士前期課程 1 年）

◆学生紹介（P10～）

「学生の目線から科学の面白さを人々に」—IRIS メンバー2 人にインタビュー—

◆インタビュー（P12～）

「“ 垣根のない大学” をめざした学域・学類改革と教育環境整備を推進」

高橋 哲也（教育・入試担当副学長、教育推進本部長）

◆インタビュー（P22～）

「学生支援のコンセプトは「〈多様〉〈融合〉〈国際〉」、様々な学生が包摂（インクルージョン）  
できることが大切」

吉田 敦彦（学生担当副学長）

◆学生紹介（P29～）

【若手起業家の学生】 LiveDeli（ライブデリジャパン）

安達 健二（工学研究科 電気・情報系専攻 博士前期課程 2 年）

◆インタビュー（P30～）

「大阪府立大学の国際交流」—グローバル化への対応、学生の海外留学支援等について—

杉村 延広（国際交流渉外担当 特命副学長）

1月19日 受験生のための情報

本日はセンター試験初日。例年になく、暖かい日だった。

さて、自分が学びたいことを学べる、そんな大学を選べるように、朝日新聞と河合塾は共同調査冊子「ひらく日本の大学」を発行している。



2018 年の第一回特集大学として大阪府立大学が取り上げられた。この冊子は、河合塾の統一テストを受けた近畿圏在住を中心に、受験を控える高校生へ配布されているが、Web 版が朝日新聞デジタル内で公開されているので、対象外だった方にもぜひ一読いただきたい。

1月20日 受験生のための情報

20 日は、この「学長室から」という facebook をはじめて丸三年。昨日 19 日は、個人的に facebook をはじめて丸八年。どちらもよく続いたものだ。このページは、誰への情報かもときにより異なるし、独り言のようなものもあるし、大学の方針の紹介もあり、雑多だ。だけど「それでいい」と勝手に思っている。本日は、センター試験の二日目、引き続き受験生のための情報。

「テレメール全国一斉進学調査」は 進路選びのための活動や、入学先の大学を決めた理由を後輩たちに伝えるために、毎年、全国で一斉に実施されるアンケート。

ここに大阪府立大学に入学を決めた理由が紹介されていた。実際にはもっといろいろな理由で本学に来た学生がいる。それが多様性になっていて、強みになっている気がする。

## 1月21日 受験生のための情報

一昨日、昨日のセンター試験は本学では無事終了した。休日出勤してくださった皆様お疲れさまでした。私は二日間、朝7時過ぎから夜8時前、書類を整理したり、読書をしながら待機していた。待機中にナビゲーションしていたところ、DJC 動画広場に本学の紹介の動画があった。

少し古いが学部・学科ではなく、学域・学類という呼称にした理由が多少わかると思う。受験生には、気分転換時にでも見てもらいたい。

さて、動画による広報については、youtube にコンテンツをあげている。

昨年の「保護者のためのオープンキャンパス 2018」では、教育福祉学類 久保田 玲さんが話してくれている。こちらも参考にしてほしい。



## 1月22日 北九州にて

17日(木)九州工業大学に行った。同大学の経営協議会の学外委員として。年に4回あり、本学での業務に支障がない限り出席するようにしている。国立大学の経営状況や大学運営を学ぶよい機会になっている。

その中で、尾家学長の新年のあいさつが配布され、そこに「ブッシュ大統領(親の方)が30年前に行った就任演説において、『危機的な問題については結束を。重要な問題については多様性を。あらゆる問題について寛容を』を引用して、結束、多様性、寛容の重要性を国民に語りかえた話をされた」とあった。大学運営の視点で、「結束、多様性、寛容」という言葉を考えさせられた。尾家先生の挨拶はいつも楽しみに読んでいる。

当日の会議は15時過ぎに終わったので、門司港に行ってみた。下関には石を投げれば届くような近さだ。関門トンネルの人道に入ったり、レトロな税関や駅も訪れた。以前は大連(中国)への定期航路もあったという。鉄道や空路が発展するまでは交通の要衝の地だったことがよくわかった。

## 1月23日 日経シンポジウムに登壇

11日の話になるが、日経が毎年開催している大学改革シンポジウムに招待された。今回は「企業人の経験をいかす」ということで、24年間の経験に注目されて呼ばれたのだと思う。

司会は、毎日テレビで見かける池上彰氏。東工大でリベラルアーツを教えておられる。出口 APU 学長、西井北大副学長、日経関係者と事前に昼食を一緒にさせてもらったが、進行について相談があるわけでもなく、シナリオなしの討論になった。

討論の内容は一年間アーカイブされ発信され、二月には日経全国紙に掲載されると聞いている。

<https://channel.nikkei.co.jp/d/?p=daigaku1901&s=1489>

1時間50分あるが私の発言は次。3回に分けてみて次の目次を作ってみた。

- (1) 2分経過時：自己紹介と池上氏・出口氏の討論を聞いての感想
- (2) 15分経過時：大学に赴任した経緯&驚いたこと
- (3) 28分経過時：異分野融合(21世紀科学研究所のこと)
- (4) 35分経過時：市大との統合・大学連携の大切さ

- (5) 51分経過時：産学官連携（後継者育成プログラムのこと）
- (6) 1時間7分経過時：教育カリキュラムのデザイン
- (7) 1時間13分経過時：万博
- (8) 1時間17分経過時：OBネットワーク作り
- (9) 1時間20分経過時：つばさ基金（寄付）
- (10) 1時間39分経過時：インターンシップ
- (11) 1時間46分経過時：最後の一言



#### 1月24日 卒業生が来校（22日）

研究室を持っているときに指導していた学生が会いに来てくれた。

一人は中国から留学し、2006年に入学したK君。学部入試の時に面接したのが13年前。研究室配属で希望してくれ、博士前期課程修了後、日本企業に就職。私は彼の卒業校（瀋陽の東北育才学校）に行ったこともある。着実にキャリアアップし、2月から横浜に転居するという。



もう一人はS君。2005年にマテリアル工学科に入学したが、「情報の勉強がしたい」と私の研究室に2回生の時から出入りしていた。博士前期課程から正式に私の研究室所属となったが、そのとたん、一年間フランス留学。M2でもアメリカのベンチャー企業にインターンシップしていた。就職後、新事業企画をしていて、今、府大発ベンチャーROKKENと面白いチャレンジングなことをしている。ROKKENでは、フランス人3名を雇用していて一緒に来てくれた。ちなみにROKKENとは、私の研究室が第六研究室で、六研と略して呼称されていたところからきている。



二人とも今どん欲に知識を獲得しようとしている。学びの習慣を府大で身につけたという言い過ぎだろうか。教員をしていて、卒業生の話を聞くのは楽しみだ。

#### 1月25日 ガリレオの小径

昼休みやたまに時間があくと府大池の周りを歩く。その道をガリレオの小径と名付けている。学生さんたちは皆知っているだろうか？冬なので木は葉を落としている。歩いていると水鳥がいきなり飛び立ち驚かせてくれる。先方にとってはこちらが驚かせているのかもしれない。サクラの木は、春を待ち構えている。今年もきれいな花を見せてくれるだろう。



## 1月26日 卒業生室にいろいろな蜜柑が

同窓会には、地域同窓会と学部・学科別同窓会がある。現在、活発に活動している地域同窓会は、東京、名古屋、岡山、広島。広島はもう50年を超えるという。

以前、新幹線は東京～新大阪。岡山に行くのは在来線。当然スマホもないので、岡山出身でなくて岡山に赴任すると同窓会で先輩にお世話になったのが忘れられないという方が多い。今では全く事情が違うだろう。

その岡山同窓会に毎回顔を出してくれる水泳部OBのHさん。リタイヤして瀬戸内の島で蜜柑を育てておられるという。今年も広報課卒業生室に送っていただき、私もお裾分けを頂いた。今でも母校のことを気にかけて下さっている方が、日本中、いや、世界中におられる。このネットワークをさらにつないでいきたい。インターネットがどんどんつながっていったように。

東京では、2月11日に新年会の同窓会がある。私はもちろん、今回は、大学から20名以上、各地区の同窓会、斐文会、白鳥会などからも参加がある。首都大学関係者も多数見える。大阪府、堺市、岸和田市の東京事務所の方も見える。この数年、若い方の出席も増えてきた。その場で多くの知り合いを創って、Greater OPUの構築に参加いただければ幸いだ。



## 1月27日 8年前の神頼み

大坂なおみさん、全豪オープン優勝おめでとうございます。全世界に「オーサカ」という言葉が伝わるのは、大阪にとってもありがたいことですね。

さて、休日に写真を整理していたら、八年前 願書受付直前に 門戸厄神に行った時のものが 出てきた。当時、現代システム科学域のはじめての受験生を迎える直前。初代 学域長予定者として、高校や予備校 さらには 留学生予備校を訪問したり、各種説明会で 新しい学域のことを説明してきたが、どれだけ 志願してもらえるか全くわからなかった。

特に 知識情報システム学類と環境システム学類は 以前にはなかったカリキュラム。今ではなかなか信じてもらえないが、毎夜のように志願者が3名しかいなくて慌てるという夢を見ていた。「やるべきことはやった」と思いつつ、募集開始直前は 神頼みしかなかった。

以来、現代システム科学域には、多くの志願者を得て、すでに一期生の一部は博士後期課程に進んでいる。就職したり、海外に出たり、起業したりした学生も出ている。新しい教育カリキュラムのフォローアップは引き続き求められるし、卒業生のネットワークを維持することも大切だ。

Greater OPUを構築していくために。



## 1月28日 アカデミックインパクト

日々の大学の活動でアカデミック・インパクトに関するものを本学からも情報発信するようにしている。国連のいう10原則を守って、教育・研究・社会貢献しているかどうかを ときに自省をこめて見つめたい。



- 原則 1 : 国連憲章の原則を推進し、実現する
- 原則 2 : 探求、意見、演説の自由を認める
- 原則 3 : 性別、人種、宗教、民族を問わず、全ての人に教育の機会を提供する
- 原則 4 : 高等教育に必要とされるスキル、知識を習得する機会を全ての人に提供する
- 原則 5 : 世界各国の高等教育制度において、能力を育成する
- 原則 6 : 人々の国際市民としての意識を高める
- 原則 7 : 平和、紛争解決を促す
- 原則 8 : 貧困問題に取り組む
- 原則 9 : 持続可能性を推進する
- 原則 10 : 異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

過去20年間の芥川賞・直木賞の受賞者出身大学トップ5

順位	大学名	人数
1位	早稲田大	18人
2位	慶応義塾大	6人
3位	成蹊大 西南学院大	3人
5位	明治大 大阪府立大 東京大	2人

※調査経路へ。(2017年12月時点)

1月29日 府大（前身校含む）出身の著名な小説家  
昨日から、一般入試の出願受付が始まった。その状況は次のサイトで公開している。

さて、先日紹介した Find out! で小説家をみると下記が紹介されている。

藤本 義一（直木賞ほか） 経済学部 卒業

東野 圭吾（直木賞、江戸川乱歩賞ほか）

工学部 電気工学科 卒業

柴崎 友香（芥川賞ほか） 総合科学部 卒業

河野 多恵子（芥川賞、川端康成文学賞ほか） 大阪府女子専門学校（前身校）卒業

米谷 ふみ子（芥川賞、女流文学賞ほか） 大阪女子大学（前身校）卒業

富岡 多恵子（川端康成文学賞ほか） 大阪女子大学（前身校）卒業



ベネッセ社の調査によると、日本の大学で過去20年間に芥川賞・直木賞を受賞者の出身大学は早稲田大学、慶応大学が多いが、本学もなかなかのものだ。小説家になろうと志す受験生も本学のキャンパスで気づきを得てはどうだろう。（写真は昨年柴崎 友香さんと東京同窓会にて）

1月30日 公大協の資料から

去る24日東京の学士会館で公立大学学長会議があった。国の政策説明があり、JSTの黒木氏から、さくらサイエンスプランの募集について説明があった。

府大生が「海外の人と交流って大切だ」と認識し海外に出るモチベーションを持つこと、教員だけでなく職員にとって海外の人を受け入れる手続きに慣れたり、受け入れ時の諸事に精通することなどを目的

## さくらサイエンスプラン5年

受入れ機関別の採択件数(2/3) 単位:件

受入れ機関名	2014	2015	2016	2017	2018	合計
61 横浜国立大学	5	6	8	9	9	37
62 琉球大学	1	0	1	0	0	2
63 和歌山大学	1	0	1	1	1	4
64 金澤大学	0	1	0	0	0	1
65 秋田県立大学	0	0	0	1	0	1
66 大阪府立大学	0	1	3	0	0	4
67 大阪府立大学	5	3	9	8	14	39
68 北九州市立大学	7	6	8	4	9	34
69 岐阜県立大学	0	0	0	0	1	1
70 熊本県立大学	0	0	0	1	0	1
71 高知県立大学	0	0	1	0	0	1
72 高知工科大学	1	1	1	1	0	4
73 首都大学東京	4	3	2	1	1	11
74 富山県立大学	1	0	0	0	1	2
75 名古屋市立大学	0	1	1	1	2	5
76 広島市立大学	0	0	0	1	0	1
77 前橋工科大学	0	1	0	0	0	1
78 横浜国立大学	0	3	6	6	5	20
79 和歌山県立医科大学	0	0	0	0	1	1
80 慶応工業大学	0	0	1	0	1	2

39

としてこの数年、繰り返し受入れをお願いしてきたプログラムだ。

黒木氏からは、過去5年の159校の実績が配布された。積極的な活動をしている大学として、岡山大学が69回、大阪大学が53回、宮崎大学が51回と続く。九州工大と芝浦工大は41回。他にも本学より多い大学はいくつかあったが、公立大学の中では一番多かった(39回)。

平成31年度の一般公募は本日から受付が開始される。受け入れに当たって教員の負担が軽減するよう知見がたまってきているので、さらに提案が増えることを願っている。

#### 1月31日 くすのき広場 NExST

学生会館と食堂の前の広場の名前は浸透しているだろうか。学生で賑わっていることが多いのだが、試験中だったせいか閑散としていた。キャンパスを歩いていると、ここに限らず、関係者の努力でかなりきれいに整備されてきたことがわかる。また、ゴミなども全く落ちていないし落書きもない。自転車の駐輪(マナー含む)にはまだ問題が残っていると聞くが見た時にはきちんとしていた。きっと駐輪の問題もまもなく聞かなくなるだろう。そう期待している。



広場の名前のいわれは次にある。

- ◆ 「くすのき広場」 学生会館前の巨大なくすのきがシンボリックな存在になり、この広場が学生や地域住民の憩いの場となるように名付けました。
- ◆ 「NExST」 Next (次世代) と Nest (巣) をあわせた造語。広場を、次世代を担う学生達の成長を支える巣と捉え、学生をはじめとした人々の交流(x)の場であって欲しいという意図から命名しました。

2月1日 ボゴール農業大学から来訪

2011年に獣医学専攻で博士課程を修了したジュニアンティト・ベトニザ博士。現在、インドネシア・ボゴール農科大学獣医学部に勤務されている。昨年11月に留学生弁論大会にも来日して下さったが、今回はさくらサイエンスプランで引率として。

二人の学生は三週間にわたって、組織寄生虫の病理学的診断&病態解析や家畜寄生虫の診断&種同定解析や血液寄生原虫の診断&検出感度解析などの実習を行うという。

2010年頃にはインドネシアからの留学生が10名いたのに、今は1名しかいない。なぜだろう。もし、反省すべきことがあれば反省し、一人でも多くのインドネシアの方に府大を選んでもらうようにしたいものだ。



2月2日 当面の予定

サッカーのアジア杯決勝残念でした。一点返した時には、ほのかな期待をしたのですが、ボールをいくらキープしても点には結びつかないということから、いろいろな想いが頭を巡りました。皆様はどう楽しまれていたでしょうか。さて、当面は次です。いろいろな方にお会いできるのを楽しみにしています。

2月4日 Bio Medical Form 学術交流会館

6日 FD フォーラム：障がいのある学生への授業支援

11日 東京同窓会新年会 明治記念館：多くの方にお会いできるのを楽しみにしています。

13日 校友懇話会 ハービス大阪：パナソニックエコソリューション社長の北野亮氏。

15日 大阪市立美術館：フェルメール展。現存36点中6点が大阪に。

20日 セミナー：王立ブノンペン大学 (RUPP)表敬訪問

25日 前期一般入学試験

27日 新大学推進会議

3月1日 第8回記者懇談会 I-site なんば：ニューメキシコ大学会食

2月3日 古本募金

卒業・修了する学生さんたち、また退職される先生方へお願いだ。校友会では古本募金をお願いしている。

私も先日、100冊強整理するときに行った。自宅からであれば、5冊以上送れば郵送料が無料となる。年度末までまだ時間があるが、できるときに行ってほしい。

みなさまの読み終えた本が学生を支えます  
家に眠っている本はありませんか？

読み終えた本を  
母校のために寄付しませんか？



【大阪府立大学】  
古本募金「ブックオフ」は、大阪府立大学  
校友会会長はじめブックオフに賛同している方々からのご寄  
附によって、大阪府立大学の学生支援活動などを行う際の拠  
点です。  
ご自宅では書籍を投箱に預かるだけで、さらに5冊以上であ  
れば、送料も無料です。

2月4日 I-site なんばから徒歩で市大病院へ

先週の金曜日午前中府庁に出張だった。午後は市大病院の会議室で打合せ。

その間に2時間あったのでI-siteで読書した。3階にある「まちライブラリー」には、看護学類の学生だろうか、国家資格試験の準備をしているようだった。もうすぐ試験日



なのだろう。熱中しているようなので、声はかけなかった。いろいろな国家資格試験が近づいているが、インフルエンザに注意して手洗い励行するなど防御につとめてほしい。

移動に普段は地下鉄を使っているが、気温もさほど低くなかったので歩いてみた。I-site なんばから少し歩くと南海今宮戎駅。また、すぐJR新今宮駅、地下鉄動物園前駅。そこまで来ると病院は見える。

周囲の見えない地下鉄からではわからない景色を感じたひとときだった。

## 2月5日 豊橋技術科学大助教上野未貴さん

先日、毎日新聞の「わたしの母校」欄に豊橋技術科学大助教 上野未貴さんの記事があった。

彼女は私が所属していた工学研究科知能情報工学分野修了。研究室は松本先生・森先生の第一研究室だったが、よく覚えている。IRISのメンバーでもあった。

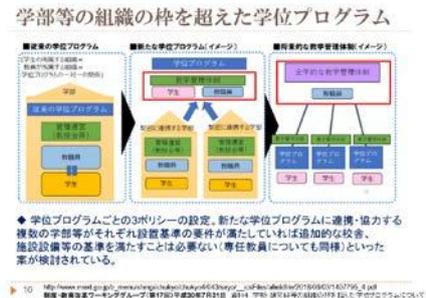
ある年のハロウィンで、その研究室の学生たちがアポなしで私の部屋に来た。日頃来ないことに加え、仮装してたので、とても驚いたことを覚えている。彼らは大きなピーナツ袋をゲットした。全研究室をまわったのだろう。

今回、たまたま新聞を見ていて、このときのことを思い出した。将来の人工知能にはこういう思い出しもできるのだろうか。



## 2月6日 学部等の組織の枠を超えた学位プログラム

先日、公大協の学長会議に出席したときに、学部等の組織の枠を超えた学位プログラムという話を聞いた。法律の改正が必要なもので、まだ実現できないが、新たに大きな投資をせずに魅力あるものができそうな気がしている。今副専攻として検討しているものも主専攻にするとか、ダブルメジャーするとかどうだろう。よく文科省の動きをフォローしておきたい。



## 2月7日 橋爪伸也先生

本学の観光産業戦略研究所の橋爪先生が学長室に来てくださった。先生は、府・市の特別顧問として万博誘致に貢献され、今も企画の要職にある。

近く、学生を含めて、大学が万博にどう貢献するかの意見交換をお願いしたところ快諾を得た。

先生は大阪検定でも活躍されているし、月末には豊中市で「似顔絵の日本一決定戦」でも講演を予定されている。府立大学にはいろいろなところで活躍されている先生がおられる。

## 2月8日 ピッツバーグ在住時の思い出

身の回りを整理していたら、87年米国ペンシルバニア州ピッツバーグに滞在していた時のものが出てきた。9か月の滞在であっ



たが、現地で運転免許証を取得し、銀行口座を開設し、Social Security Number を取得した。

運転免許証は、身分証明書としてあちこちで提示を求められた。免許取得時、実地テストでは、“Turn right” だったか ” Make right” だったか忘れたが、r と l の区別がつかず、ヘッドライトを点けて試験官を慌てさせた。アパート代や電話代は銀行落としてではなくて、チェック（小切手）を郵送していた。日本で小切手など使ったことがなかったので、驚いた。社会保障番号を聞かれたら、（記憶していないので）いつもカードを見て答えていたが、普通の米国人は暗記しているものらしく、不審がられたことを思い出す。

多くの教職員、学生には、海外に行くだけでなく、住むことも薦めたい。



2月9日 一般入試受付状況

願書の提出状況の集計が終わり、大学 HP で公開している。昨年より少し減ったが、8,408 人に志願頂いた。二年前にかなり減少し、大変心配したが、関係者の努力でほぼ以前に戻った。平均ではほぼ昨年同様だったが、一部の学域・学類では増え、一部の学域・学類では減少している。受験生の皆さんには、健康に留意して当日を迎えてほしい。

今年	8,408	対前年比	99.3%
昨年	8,470		
二年前	8,146		
三年前	8,439		
四年前	8,526		
四年平均	8,395		

	教員交流	有	無	学生交流	有	無
教員派遣		✓		学生派遣		✓
教員受け入れ			✓	学生受け入れ		✓
教員派遣による共同授業			✓	学生受け入れによる共同授業		✓
教員受け入れによる共同授業		✓		その他( )		
行方不明共同授業		✓				
行方不明共同授業		✓				
その他( )						

学域	学類	募集人員	志願者数	倍率
工学部	機械工学科	40	43	1.08
	電気工学科	40	212	5.3
	情報工学科	40	118	2.95
	システム工学科	40	83	2.08
	計測制御工学科	40	385	9.63
	生産システム工学科	40	280	7.0
	計測制御工学科	40	139	3.48
	計測制御工学科	40	178	4.45
	計測制御工学科	40	188	4.7
	計測制御工学科	40	158	3.95
理学部	理学部	20	95	4.75
	理学部	20	118	5.9
	理学部	20	118	5.9
	理学部	20	118	5.9
	理学部	20	118	5.9
	理学部	20	118	5.9
	理学部	20	118	5.9
	理学部	20	118	5.9
	理学部	20	118	5.9
	理学部	20	118	5.9
経済学部	経済学部	10	104	10.4
	経済学部	10	104	10.4
	経済学部	10	104	10.4
	経済学部	10	104	10.4
	経済学部	10	104	10.4
	経済学部	10	104	10.4
	経済学部	10	104	10.4
	経済学部	10	104	10.4
	経済学部	10	104	10.4
	経済学部	10	104	10.4
文学部	文学部	10	104	10.4
	文学部	10	104	10.4
	文学部	10	104	10.4
	文学部	10	104	10.4
	文学部	10	104	10.4
	文学部	10	104	10.4
	文学部	10	104	10.4
	文学部	10	104	10.4
	文学部	10	104	10.4
	文学部	10	104	10.4

2月10日 進歩のためのチェックリスト

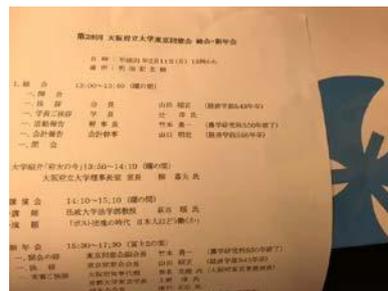
日頃お願いしている一つとして、「今何ができているか」と「これから何をしようとしているのか」というのを整理して考えてほしいと言っている。これは時間軸の話で、同様に「自分たちは何ができているか」と「他の大学は何ができていいるか」を比較して考えてほしいと言っている。

これを定着する一つとして、国際交流の調書ではそれを画像のようにした。もちろん、調書では、交流する目的とかその方法、期待する成果なども書くようにしているが、……。いろいろな分野で教職員だけでなく、学生活動においても「これまでと今後」という比較チェックリストという考え方を活用してみてはどうだろう。それぞれ考えてみてほしい。

2月11日 東京同窓会

庭が綺麗な明治記念館にて。天気予報は、雪。しかしうまく外れた。多くの方に、大学の近況と日頃のご支援のお礼を伝えた。また、懇親会では多くの方に慰労の言葉を頂いた。写真もいっぱい撮ってもらった。

府大赴任直後に留学してきた教え子も顔を出してくれた。元気に活躍しているようだ。



2月12日 2012年、13年の2月12日

最近、個人のFBでは仕事のことをほとんど書いていないが、以前は書いていた。個人のFBは、同日付の昔の仕事を思い出させてくれる。

本日思い出した一つは、7年前はまだフランスとの交換留学の窓口をやっている、当日、SKYPEで、5月にやってくる学生のガイダンスをしていた。遠隔会議の便利さを思い出すと、昨今の大学運営に関する会議さらには授業では、遠隔システムをもっと活用すべきだと思う。

もう一つは6年前のこと。当時、中国の大学勤務の中国人との論文が採択になって喜んでいた。この数年前に、彼から突然「辻の論文を読んで一緒に研究したい」と申し込みがあり、その後、メールでやりとりしたり、実際にあったりして研究していた。彼はその後カナダに留学した。最近、このようなオファーは全く来なくなったのが少し寂しい。



2月13日 池江璃花子さん、頑張れ

昨日ショッキングなニュースが流れた。水泳選手の池江さんが白血病にかかったということだ。世界スイミング大会、東京オリンピックへと努力を重ねてきているだけにご自身のショックはいかほどだろう。きっと、日本国民だけでなく、世界中の人が応援している。「池江選手、治療に専念して必ず復帰してください」。

2月14日 FLEDGEの教育がカンボジアで

9年前から交流している王立プノンペン大学の副学長からの情報。学生だけでなく、教員、職員も同行している。来週は、逆に本学がさくらサイエンスプランを用いて同大学の学生を招へいする。お互いが影響を与え、影響を受ける関係でありたい。



\*\*募集要項から\*\*

・このプログラムは、語学研修や特定の専門分野の学生を対象とするスタディーツアーとは異なり、学域、専門分野を問わず誰もが参加可能なプログラムです。前半4日間を過ごすプノンペンでは、王立プノンペン大学の学員とチームを作り、ディスカッションやグループワークを行い、与えられた課題と一緒に取り組み、チームで考えたビジネスアイデアを英語でプレゼンテーションします。カンボジアの現状を知るための視察やフィールドワークも実施します。プログラム後半はシムリアップに移動し、アンコールワット遺跡群にてクメール文化や遺跡の保存に関する諸問題等について学びます。



・これらの体験を通して、グローバルな視点を持つ、外国語でコミュニケーションする、チームづくりの、デザイン思考、アントレプレナーシップマインドなど、今後社会で活躍するために求められるスキルを伸ばすことを目的としています。

2月15日 辰巳砂昌弘先生が次期学長候補者に

一昨日学内ポータルにそして昨日大学HPに掲載したように、辰巳砂昌弘工学研究科長が学長候補者として選考された。今回は、4月に新法人ができ、まず知事が理事長（予定者は西澤良記大阪市立大学前学長）を任命し、その理事長が大阪府立大学の学長を指名するという手順になる。その指名に先立ち、選考会議の議論を経て、西澤先生に「候補者」として推薦する形となる。



辰巳砂先生は現在工学研究科長。昨年は文部科学大臣賞も受賞されている。気が付けば、法人統合まであと45日。私としては、前学長の奥野先生から受け取ったバトンを何とか手渡すことができるかとほっとしている。私は、3月末で大阪府立大学を離れるが、新法人の本部の一員として、法人統合のシナジー効果を起こすべく、微力を尽くしたいと考えている。

2月16日 当面の主な予定

少し風邪気味だ。肩の痛みで右腕が上がらない。「五十肩かも」と言ったら何人かに笑われた。年度末に向けて会食が増えるので、しっかり体調を整えていきたい。

2月18日 近畿大学訪問

アカデミックシアター、英語村、キャリアセンターを見学し、細井学長を表敬訪問。

20日 新大学検討部会&セミナー、王立プノンペン大学教員学生来校

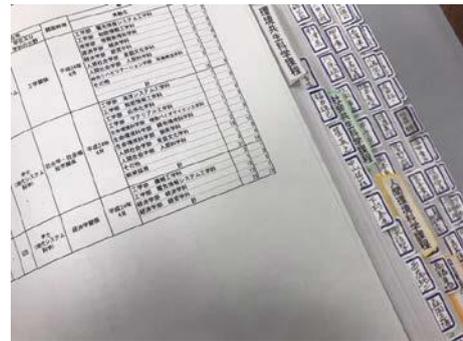
22日 役員会、トビタテ10期生採用学生面会&激励

25日 前期入学試験、ダラット大学教員学生来校、知識情報システム学類学生面会

26日 Society 5.0 人材育成分科会@経団連会館、博士号指導 OB との会食@東京  
 27日 新大学推進会議、28日 阪大&九工大来客面会  
 3月1日 記者懇談会、 米国ニューメキシコ大会食  
 6日 高額寄付者との昼食会、7日 TEC 修了証授与式、8日 中期入学試験  
 9日 校友会理事会・評議員会、10日 大阪検定客員研究員発表会@I-site なんば  
 11日 南大阪大学コンソシアム理事会・総会、12日 後期入学試験  
 15日 高専卒業式、19日 学長顕彰@交流会館、20日 IRIS 活動報告会  
 21日 地域保健学域教授会@羽曳野、22日 経営会議、期中監査報告会  
 24日 学位記授与式、27日 新大学推進会議、29日 辞令交付式

2月17日

書類を少しずつ整理しはじめた。キャビネの中に現代システム科学域のメンバー調書があった。異動元の記載がある。全学から教員が集まって教育プログラムをデザインしたことがよくわかる。



2月18日 記者懇談会

毎年2回のペースで、メディアの方と意見交換する懇談会を行っている。次回であり、かつ私にとって最後となるのは3月1日。プレゼンする先生方は固まった。先週まで何を話そうか迷っていたが、週末、風邪で寝込んだおかげか、ふと、「アジアに展開する府大のDNA」ということでまとめようかと思いついた。まだ10日ある。情報を集めて、うまくプレゼンテーションしたい。

2月19日 東京同窓会には女性の参加が多くてびっくり

少し時間が経ってしまった。11日、信濃町近くの明治記念館で恒例の新年会があり、招かれて参加した。斐文会の仁科会長、白鳥会の前田前会長に加え、多くの女性OGに参加頂いた。

EDGEプログラムで講演をしてくれたOGもいつも通り来てくれた。私の研究室に来てくれた留学生OGも来てくれた。獣医学を学んだ留学生も来てくれた。

これまで男性の高齢者が多かったのに対して、だいぶ雰囲気が変わったように思う。いろいろ工夫をしてくださっているので、若い方も参加しやすくなってきたのではないだろうか。一方で、東京同窓会として会費を支払う会員の減少に歯止めがきかないという話も聞いた。執行部の方にはかなりご苦労をかけているようだ。

ちなみにこのスライドショーでは女性とばかり写真を撮ったように誤解されるかもしれないが、多くの方と一緒に写真を撮らせていただいた。お世話になり、ありがとうございました。

2月20日 近畿大学英語村 E3 [e-cube] を見学

先日、近畿大学に勤務している府大OBに会うことがあり、「一度、キャンパスを見学させてもらえませんか」とお願いしていた。うれしいこ



とにすぐ、アカデミックシアターと英語村を見学する機会を得た。また、細井美彦学長にもお目にかかり、ご挨拶・お話することができた。本日は英語村の訪問録。

Kitazume 村長に案内されて見学。開村依頼、137万人を超える来場者がいることが示されている(学長室の来室者の合計を数えておけばよかった!)。カフェテリアがあり、ギターがおいてあったり、バスケットボールのゴールがあったりして、日常生活の英語が学びやすいようになっている。I-wing でも、すぐにも参考にできそうなことが多々あった。

前から気になっていた表現で、注文するときに「May I have XX please?」というのか「Can I have XX please?」というのかを質問した。私は、学校で前者として習った覚えがあるが、米国在住時には後者をよく聞いた。なので、「アメリカとイギリスの違いですか」と補足して聞くと、前者はより高級レストラン、後者はカウンターで注文するときの俗っぽい表現ということだった。

見学中に一つ覚えた。「私は、高級レストランに行くので、May I have XX please?と言います」と言ったところ大笑いされた。

見学の機会を頂いたことに感謝している。

## 2月21日 25周年を迎える関西経済論

特別公開講座として、長年、地域の方にご参加いただいている関西経済論。その講師が決まって、募集がはじまった。

私も6月6日に荒川哲男先生と対談という形で登場する。TV番組でおなじみの住田弁護士、府大OB若手起業家の藪ノ賢次氏、阪神タイガースオーナーの藤原崇起氏も登場する。ぜひ、それぞれの立場で周囲の方に受講を薦めて頂きたい。世界に翔く地域の信頼拠点となるために。



## 2月22日 王立ブノンペン大学の表敬訪問

現代システム科学域の瀬田教授らがさくらサイエンスプランを用いて招へいたRUPPの教員・学生が学長室に来てくれた。毎年来てくれているし、先週は府大の教職員、学生がアントレプレナー教育でRUPPを訪問していたという間柄だ。

私が最初にRUPPを訪問したのは2010年。当時、学生だった一人がその後ドイツに留学し、帰国後教員になって学生を引率してきた。昨年の引率者も最初に出会ったときは学生だった。時の流れる早さと交流の継続を感じる。

一週間、両大学の学生、教職員が異文化を感じて、さらなる学習意欲を駆り立ててほしい。



## 2月23日 堺市・ダナン市友好都市提携署名式に参加

23日、ホテル・アゴラ・リージェンシー堺にて、友好都市提携署名式があり、招待されて出席した。本学は、2007年にダナン工科大学と、2009年にダナン大学と学術交流協定を締結している。昨年、来校されたときにこのページでも紹介したが、ダナン大学の Tran Van Nam 前総長は、本学の大学院を修了されており、最近もダナン工科大学の若手研究者が本学で博士号を取得している。交流は、行政レベル、産業界レベル、学術レベルの三階層になっているとより深くで強いものになる。フランスのヴァルドワーズ県、米国のパークレー市とのように三階層の新たなケースになればいいなあと願っている。



## 2月24日一般入学試験（前期日程）設営準備

少し整理することがあって、短時間、キャンパスに出向いた。明日、25日の試験当日を迎え、受験生らしき人が何組かいた。下見に来ていたのだろう。天気予報によると晴れるようだし、気温もそれほど下がらない。受験生たちの健闘を祈念する。



## 2月25日 近畿大学訪問記（2）

18日に見学させた一つにアカデミックシアターというのがある。全体が5つの建物とそれをつなぐ建屋からやっている。マンガ展示でメディアを賑わしたが、マンガを入り口としていろいろな学ぶができるような工夫（学びの環境の編集）がなされている。まちライブラリーでもやっているが、ある本は横向きに並べ表紙が見えるようにしている。



学生さん（美術に心得のあるかただろう）がメッセージを描いているのも刺激的。

**Happy Bag** というのは本の福袋。中にある本がわからないのに貸し出しをするという。昼休みに学生が企画して学内向けに放送する



スタジオ。24時間使える女性専用自習室。なんと教職員用の食堂（レストラン）には、「近鮎」という近大マグロを食べる場所まで用意されていた。



## 2月26日 グローバル化の波

4年前、研究室の卒業生が来てくれた時のこと。卒業生には、どんどん大学に戻ってきて、学生に話をしてほしい。各専攻や学類ではそういう場を設けてほしい。



----- インドに4年間赴任してこのたび帰国した卒業生は言う。今後日本企業が日本人を海外に派遣する機会は減り、現地の人をもっと雇うようになるだろう。幹部も現地の人になっていくだろう。一方、日本のオフィスでも海外の人をもっと雇用するだろう。幹部にも海外の人を登用するであろう。すると海外でも国内でも日本人のポジションは減るのではないだろうか。

結構正しい指摘のように思う。こういうことが予想されるとき大学の教育をどうしていくのか、あまりゆっくりとはしていられないように思う -----

あと、こんな言葉も肝に銘じておきたいものだ。

"One mark of a great educator is the ability to lead students out to new places where even the educator has never been." ~Thomas Groome

## 2月27日 日本を変えた千の技術博

出張で上京する機会があり、早起きして、上野の国立科学博物館で開催されている特別展示を見てきた。明治150年記念ということで、夢をかなえた技術たちということだ。

理学のことを昔は「窮理」とっていたそうだ。明治時代の理科の教科書も展示されていた。セルロイドのお人形も懐かしかったし、昔の公衆電話も郷愁を感じる。ウォークマンもあれば、最初のマイコン、ワープロなども展示されていた。

前の150年を振り返るときに、次の150年を予想できるだろうか。50年はどうだろう。2040年の社会はどうなっているだろう。万博に展示する何かを大阪から発信できるだろうか。図録を購入した。学生さんにも成長の時代の産物をもってもらって、成熟の時代の絵姿を描いてもらえればと思う。

## 2月28日 ベトナム・ダラット大学の表敬訪問

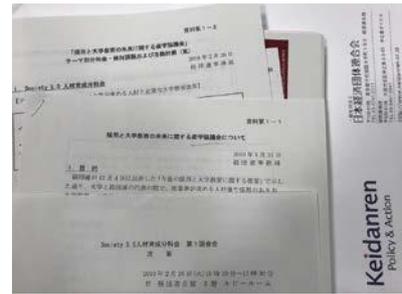
放射線研究センターの松浦教授が、さくらサイエンスプランで招へいした同大学の教員・学生が会いに来てくれた。すでに同大学からは、大学院に合格し在学している学生がいて、彼らも同行してくれた。同大学は、山間部にあり、気温も海岸部に比べるとかなり低いらしい。

私は、アジアの優秀な学生に府大へ留学してもらうためにはいろいろな努力をしなければならないと思う。短期間かもしれないが、招へいプログラムの活用はその有望な策だと思って、全学の先生にお願いしている。四回に分けて締め切りがあるが、どうせ応募するなら早い回がいい。



### 3月1日 Society 5.0 人材育成分科会

経団連に「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」というのがあり、そのなかの一つの分科会に参加することになった。公大協経由で話があったもので、三つの分科会のうち、上記のもの。第一回は、国立、私立、公立の各大学、産業界から20名を超える参加者があった。



今後、月に一度のペースの会合で具体的な行動計画（モデルカリキュラムを含む）を策定・実施していくことになる。府大からは、事前アンケートで「システム発成型物質科学リーダー養成学位プログラム」と「現代システム科学域」と「グローバルアンテプレナー教育 FLEDGE」を事例として紹介した。当日は、統計を教えられる教員の確保がむづかしく、デジタルコンテンツの整備が急務と意見を出した。

### 3月2日 トビタテ留学 JAPAN10 期生と面談

政府が支援している留学プログラムで、今回、総リハの野尻さんと環境システムの花岡さんが合格しその報告に来てくれた。これまで大学院生が多かったが今回は学士課程の学生さん。また、理系、複合・融合系人材コースが多かったのに今回は多様性人材コースで合格している。

トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム第10期派遣留学生選考結果  
(選考結果(申請コース別))

申請コース	応募学生等数	採用学生等数	
①理系・複合・融合系人材コース	535人(126校)	185人(74校)	221人(83校)
	②未来テクノロジー系人材枠	51人(34校)	
③新興国コース	155人(59校)	59人(44校)	
④世界トップレベル大学等コース	108人(37校)	30人(15校)	
⑤多様性人材コース	556人(167校)	106人(58校)	
⑥地域人材コース	23人(9校)	16人(6校)	
計	1,428人(252校)	432人(136校)	

※この他に、地域人材コース異校卒等枠で2名(2校)が応募、採用

イギリスに行くそうだ。健康・安全に留意して頑張ってきてほしい。現地におられる方で支援頂ける方には声をかけてほしい。ネットワークをつなぐことが大切だ。

二人には以前にもあっている。野尻さんは、公大協の学生イベントで発表していたし、花岡さんは、フダイバーシティプロジェクトのパネルディスカッションで発表していた。

本学はこれまでに18人採択。高専と合わせれば20名。多数採択の公立大学は次のとおり。国立や私立の採択数を見るともっと応募してもっと採択にならないと「世界に翔く」と言えないなあと思う。

- 横浜市立大学 32人
- 首都大学東京 24人
- 宮城大学 19人
- 国際教養大学 19人



### 3月3日 第8回記者懇談会は「新大学につなぐ、府大のDNA」

3月1日、I-site なんばにて、多くの記者の方に集まっていただいて懇談会を開催した。今回で8回目。

私からはアジアに展開する府大の DNA。山東先生が「府大のあゆみ」、山手先生が研究における府大の DNA、床波先生がその事例。さらに大塚先生と松井先生が教育への展開。SiMS の大学院生の宮田さんと乙山さんが先日ニューメキシコ大学で鍛えてきたエレベータ・ピッチ・トーク。

画像は私が紹介した安保先生、石淵先生、橋本先生、柳先生、前田先生のご活躍の様子。世界に翔く地域の信頼拠点として、これからも多くの先生が海外で教育・研究に携わってほしいし、多くの優秀な外国人を受け入れる大学でありたい。

改めて府大のアピールポイントは次だ：

- ・古くから異分野融合の研究教育土壌があった
- ・多様性を重んじ複眼的な視点をもつ研究者が多い
- ・その土壌は組織的な展開をとっており、人材育成にも展開
- ・学際的な学びの制度を設置し、多様性理解と分野融合という社会テーマをリード
- ・この DNA は、新大学の中で、未来に引き継ぐ

### 3月4日 記録することの大切さ

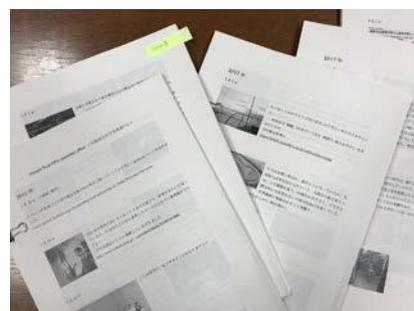
少し前のことになるが、現代システム科学域の真嶋先生の研究室の学生さん（杉谷さん、古川さん）が年報のことをインタビューに来てくれた。医療看護情報システム研究室で「凜」という年報を編集していて、その企画らしい。



研究室の年間の活動を冊子としてまとめるのは大切だと思う。前職時代、報告書は領収書であり、請求書であると指導を受けてきた。日頃、支援してくださっている方に「こんなことをしました」また今後支援してくださろうという方に「こんなことをしていきます」という意味で。

南元学長は「文明人か文明人でないかは、記録をしたか記録をしなかったのの違いだ」という話をよくされていた。研究室の記録を残し、時間・空間を越えて伝えていくことの大切さを共有したい。

また、それぞれの研究室での工夫（Good Practice）を隣の研究室に展開することはできているだろうか。リーディング大学院では、研究室ローテーションというプログラムで、別の研究室に短期間滞在研究することで受入れ研究室にも刺激を与えたと聞いているが、いろいろなアイデアで研究室を越えた活動が増えることを期待したい。



### 3月5日 この facebook ページ

3月末で、2期4年の任期を完了し、学長を退くのでこのページをどうするかを相談している。毎日の更新はぎりぎりまで行い、その後は数か月おいておき、閉鎖する方向。

1期目の途中から、たぶん、毎日書いてきた。長期休暇の時や海外出張の時は数日分書きだめしていた。原則18時に公開されるよう時間設定していたが、ときにネタがなくて24時近くになることもあった。

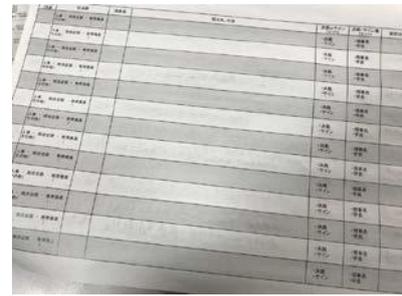
「継続は力なり」で、いつのまにか、796人の方にフォローしてもらっていた。ときどき「読んでいますよ」とか「楽しみにしていますよ」とか「知らなかったことがありました」と声をかけてもらうのが、「続ける」ということに対する励みになった。

今までの投稿をすべてWORDに入れてもらっている。見てみると約700ページになっていた。4月以降時間の合間に、特に伝えたかったメッセージだけまとめて冊子にしようかと思っている。

### 3月6日 決裁の記録

学長として決裁したときには、それを記録するようにしてきた。どの課が多いのか、いつが多いのか、本当に必要なのか、逆に学長に決裁がほとんど来ない課には問題がないのかなど。ビッグデータではないが、記録を残すことは大切という信念から。

ざっくりだが、過去3年をみると、299件、294件、291件とほぼ同じ件数だということが分かった。この4月で法人統合することから、事務が煩雑になる可能性が多い。油断すると決裁の回覧はすぐ増える。各課においては、それぞれの内容に応じて、誰が決裁すべきか、専決できるかをよく考えてほしい。



種別	担当課	持参者
人事・総合企画・教育推進 その他		

決裁のサイン ○をつける	決裁/サイン種 ○をつける	直前決
・決裁 ・サイン	・理事長 ・学長	
・決裁 ・サイン	・理事長	

### 3月7日

#### 大阪検定客員研究員報告会 (10日@I-site なんば)

1970年に大阪で開催された万博を振り返りつつ、次の博覧会への提言がある。5人の大阪検定一級取得者の研究内容だ。後半には、大阪検定1級に5回合格された方など大阪の超人、大阪の達人、大阪の鉄人の称号が大阪商工会議所から授与される。万博に関心のある方の大集合を期待したい。参加は無料だ。

### 3月8日 中尾佐助コレクション

先日の記者懇談会で、「アジアに展開する府大のDNA」ということで、現在、アジアで教育に携わっている先生を紹介した。府大のアジアといえば、古くは中尾佐助先生。先日、近畿大学の細井美彦先生にお会いしたときに「高校時代に中尾佐助先生の本を読み、農学を専攻した」というお話を聞き、改めて、中尾先生が多くの研究者・学生に影響を与えたのだと知った。

中尾先生が提唱された「照葉樹林文化論」の資料は図書館に特別コーナーとして常設されているほか、電子化されて多くの研究者に提供されている。

研究者にしかかなか価値はわからないかもしれないが、ぜひ、一度覗いてほしい。なお、中尾先生の教え子である西岡京治氏が、ブータンの農業技術指導に半生を捧げ、後に国の恩人として国王から最高爵位を受けてい



ることは有名だ。多くの府大生が中尾先生、西岡氏の影響(DNA)を受けてきたし、これからも受けるだろう。

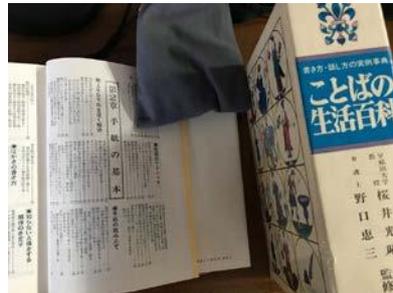
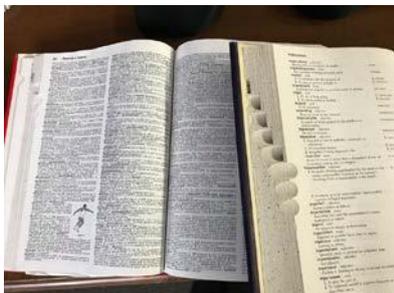
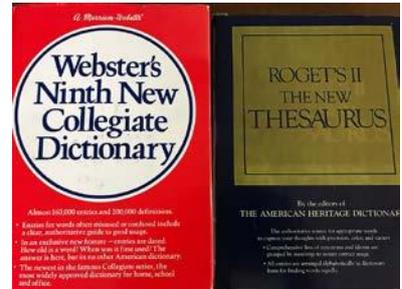
### 3月9日 辞書について感慨ひとしお

少しずつ学長室を整理している。写真の英語の二つの辞書は、米国滞在時(87年)に購入した。索引のところに指をかけれるのが格好良く感じていた。あまり使わなかったが書棚の目立つところにおいていた。

電子辞書は数年前に購入したが、どうも一度も使っていないようだ。Webで大体のことが間に合っているのだろう(恐るべし)。引き取り手がいるかどうか分からないが、学内の再利用サイトに登録へ。

他にもいろいろな辞典がある。ことばの生活百貨は就職直後に購入したのだと思う。ビジネスレターの書き方などが参考になったが、これらとも別れようと思う。マーフィの法則によると、手元にあるときには不要だったのに、処分したとたんに必要になるという確率がすごく高いというがどうだろう。

高校時代に英和辞典がぼろぼろになるまで引いていた。手垢のついたものはなかなか別れられない。多くの人もそうだろう。以来、何度引っ越ししてもついてきてくれたが、今回、見つからない。



### 3月10日 当面の予定

明日は3月11日。東日本大震災から8年。当日甲南大学での研究会に学生と出席していた。帰りに号外の新聞で知った。改めて亡くなった方のご冥福と被災された方へのお見舞いを申し上げる。府大生がOPU for 3.11というサークルを作ってバスボラを企画してくれた。この伝統は今も生きている。

さて、A1棟(前本部、元総科1号館)跡地の整備が進んでいる。多くの人がここで学んだんだろうな。A2棟の跡地とあわせるとかなりの広さだ。大学のキャンパス計画が決まらないので当面はバスの駐車場などで利用する。

月末までの予定が詰まってきた。



- 11日 南大阪大学コンソーシアム理事会・総会、12日 後期一般入学試験
- 13日 計画評価会議、14日 ベトナム科学アカデミー関係者来校
- 15日 高専 卒業式（寝屋川）、19日 教育研究会議、学長顕彰
- 20日 IRIS 報告会、羽曳野キャンパス訪問、22日 経営会議、24日 学位記授与式
- 27日 りんくうキャンパス訪問、28日 役員懇親会、29日 辞令交付

そして、31日に公立大学法人大阪府立大学は廃止となり、新設合併で資産はじめ大半が公立大学法人大阪に継承されるが、学生さんはじめ外部から見える大学はそのままで何も変わらない。

### 3月11日 70年の大阪万博

10日に I-site なんばで大阪検定客員研究員の研究成果報告会があった。今回は六回目で、たぶん私が理事になってから始まったと思う。途中退席することもあったが毎回出席しており、おなじみの方も多し。



パピリオリオンの語源は、蝶々のパピヨンからきていて、当初テントが蝶々の形をしていたことから来ているそうだ。当時のパピリオンの追跡調査も興味深かった。

私は当時高校2年生。クラブ活動に夢中だったので万博には二回しか行ってない。それまで海外の人と会うことがなく、欧米の人の顔が皆同じに見えたことを何となく覚えている。写真は当時の統計。迷子の数も半端ではない。橋爪先生によると当時は入り口で迷子ワッペンというのを親と子の服につけておいて、迷子になったときに番号で呼び出していたそうだ。

報告会の冒頭挨拶する機会があり、当時テレビ電話が展示されていて画期的だったが、私なりのアイデアを伝えた。このアイデアについては別の機会に書きたい。万博に限らず、イベントがあるとそれにかこつけて想いをつくり、語り合うことが大切だと思う。無理のない範囲で。

### 3月12日 兼務発令

私が学長になったのが2015年。最初に考えたのが、組織間のつながりをつくらうということ。強くするかそういうことではなく、情報共有が進むようにしたいと考えた。その手段として、2年間（2016年度まで）管理職の兼務を多く発令した。

当時の広報渉外部長に地域連携研究機構長を兼務してもらった。公開講座は広報してほしいし、地元企業との共同研究成果もオンタイムに広報したいと考えたからだ。今は、兼務がなくても連携できるようになった。

地域連携研究機構の企画調整監に国際交流推進機構も担当してもらった。のちに、「地域とつながる国際交流～海外とつながる地域連携」という合言葉で国際交流と地域連携を一つの課にした。泰日工業大学の学生を地元企業へインターンシップする事業はこの一つの成果だろう。

学生センター長と国際交流推進機構長を同一人物として、それまでおいていなかった副センター長、副機構長をおいた。特に留学生を国際交流の視点でサポートしていたが、学生課の視点でサポートすべきと思い、兼務発令した。その後、留学生支援は学生課に移した。

当時、教育推進課だけを担当していた参与に学生課も見てもらうようにした。教務、入試、学務は密接に関連しているので縦割りにしたくなかった。

2015年には、教職協働組織として、研究校正推進室、大学評価室、生涯学習推進室を設けた。現在の教職協働組織については、別途書きたい。

### 3月13日 台北駐大阪文化経済弁事処との意見交換&懇親

去る7日、李世丙処長らに招かれて、本学と台湾企業との交流について意見交換した。出席した藤井教授は、淡江大学と毎年研究集会を開催しているし、松井教授は、昨年から台南大学とのジョイントサマープログラムを実現している。石井副学長（昆虫学）は45年前に訪台後、機会がないということだが、ぜひ、今年は網を持って訪問頂きたい。

私と龍ヶ江課長は、一昨年9月に同処の推薦で台湾を一週間訪問し、多くの大学と意見交換し交流を促進してきたが、今後は企業とも交流してはどうかという話だ。彼らの関心は、府大生の就職（採用）ということで、海外の優秀な学生を積極的にリクルートする姿勢を感じた。7月ごろに就職説明会をできるなら企画してみたい。府大生は関心をもつだろうか。

そういえば、新竹の交通大学を訪問したとき、地元企業と連携して（奨学金を用意して）毎年インド工科大学から優秀な学生を500人受け入れていると聞いた。台湾で結婚しない人が増え、少子高齢化が進むとともに、外国人の受入れが急務ということだ。座して待っているのは優秀な学生を受け入れられないということだろう。肝に銘じたい。

### 3月14日 週末に二冊の本をいただき決心

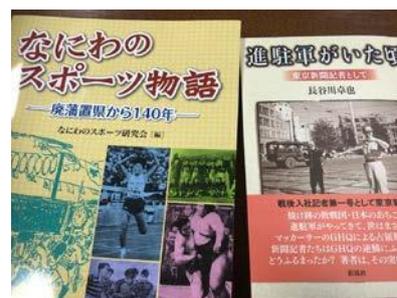
この週末は二日続けて、I-siteのイベントに出かけた。

土曜日は、校友会の理事会・総会があり、そこで東京同窓会所属の長谷川卓也氏の「進駐軍がいた頃」。氏は旧制官立大阪工業専門学校（現・大阪府立大学工学域）卒業後東京新聞社でご活躍後、東京田辺製薬株式会社で勤務された異色の経歴をお持ち。妹様、弟様も本学が母校だそうだ。

日曜日は、大阪検定客員研究員発表会があり、そこで、なにわのスポーツ研究会（会長：後藤幸弘先生＝大阪市立大学にも在籍履歴あり）編の「なにわのスポーツ物語」。物語というより、史実を記録したもの。

いずれも、「大学においていただければ」というありがたいお申し出だったので、一読して、まちライブラリーか図書館に入れようと思う。

本を書くのは大切だと改めて思い、私も退任したら、式辞やスピーチで述べてきたことを整理して、本として出す決心をした。大阪公立大学出版会事務局に打診のメールを入れたら、早速、足立泰二理事長が学長室に来てくださり、丁寧に相談にのってくださいました。5月の連休明けに原稿提出。自ら首をしめた。もう逃げられない。



### 3月15日 つばさ基金高額寄付者に感謝状

先月28日に、つばさ基金に高額を寄付してくださったお二人を学長室に招待し、感謝状をお渡しするとともに昼食を一緒にした。

小林さんは、私が赴任した経営工学の前身、工業経営を



ご卒業後、有名な甲南チケットを創業し（現在はすでにご売却）、その後も多くの起業をされている。公開講座の高校生起業家講座も支援頂いている。

木原さんも工学部電気工学科ご出身。特許庁の技術系のトップである技監を務められたのち、大阪に戻り、現在は深谷特許事務所の所長としてご活躍中。府大で講演していただいたこともある。

大学をご支援いただいたことに深く感謝する。

### 3月16日 仕事の合間にフェルメール展

昨日（15日）は午前、寝屋川にある高専の卒業式だった。午後は2時半に阿倍野で会議。中百舌鳥に戻るには中途半端でどうしようと思案していたところ、FBでフェルメール展（天王寺の大阪市立美術館）に行ったというポストをみた。「そうだ!」ということで一時間だが、見学。

<https://vermeer.osaka.jp/>

フェルメールについては、2005年オランダのハーグにある国際会議に参加した時に「真珠の耳飾りの女」を見て、その素晴らしさに感動した覚えがある。「光の画家」と聞いているのでその先入観で作品を見てしまうが、描かれているまわりの様子が想像されるものだった。



### 3月17日 断捨離の中で形見(?)分け

いろいろな荷物を整理している。それぞれに思い出があり、捨てがたいが、自宅に持ち帰っても「間違いなく使わない」ものが多い。

引き受け手がいれば、お渡ししている。その一つが砂時計。引き取り手が出た。いつから使っているか記憶が定かではないが、会議が長引いたり炎上したりしたとき、険悪にならぬように場をなごます小道具の一つとして愛用してきた。

どうおってないものにも多くの思い出があることに気づくこの頃だ。



### 3月18日

私はものごとを考えたり、整理したりするときに、白板を活用している。これは前職時代もそうだし、教授時代もそうだった。部屋の2つの壁面に各2枚ずつ白板を吊り（証拠写真を探したら見つかった）、移動式白板もおいていた。一人で考えるときにも白板に図表を描いたり、箇条書きをしたりしていた（学生も落書きしていた）。



学長室には、先ほどまで移動式白板が3つあった。表裏使えるので6面に描ける。「普通の部屋(人?)であれば、一つかせいぜい二つあればいいだろう」という話があり、一つを形見分けした。活用してもらえれば、白板も喜ぶだろう。

### 3月19日 断捨離で形見分け(3)

今から4年前、奥野先生から学長を引き継ぐときに「何か記念になるものをプレゼントしようと思うが希望のものはあるか」と聞かれ、「式辞を読むときに使われているフォルダーを頂けませんか」とお願いした。気安く頼んでしまったが、イギリス製の上等のものだった。

以来、入学式、学位記授与式、年頭訓示、辞令発令、学長顕彰などの挨拶時に愛用している。来月からはもう使うことはないだろう。

先週末、次期学長の辰巳砂先生にこの話をしたところ、引き受けて頂けるようなので、最終日の退職辞令・名誉教授授与に使ったあとにお渡しすることにした。



### 3月20日 キャンパスのさくらとタンポポ

今年の花(さくら)まつりは4月7日(日)11時~16時、場所は中百舌鳥キャンパス 府大池周辺だ。昨年からは、「春のオープンキャンパス」としても位置付け、受験生に府大の魅力を知っていただくための取組も加わり彩豊かな催しとなっている。

大阪のソメイヨシノ開花予想日は3月26日、満開予想日は4月4日。さてさて、学位記授与式の24日はどうだろう。式辞の冒頭で開花状況をいつも触れているので気になり、キャンパスを歩いてみるとタンポポが咲いていた。



### 3月21日 羽曳野キャンパスにお別れ

本学には、中百舌鳥キャンパス、羽曳野キャンパス、りんくうキャンパスがあり、どれも「世界に翔く(は

ばたく)」にふさわしい名称だと思っている。20日、地域保健学域の教授会があると聞いたので、学長退任のあいさつに出かけた(思いがけず、退任の記念の花を頂いた)。改めて、ここの学舎は独創的な形をしていると思う。空から写すとはっきりするのだが、五臓六腑を表現している。丘陵地にあるので、中に入ると何階にいるのか難解だ。

昨年度は、入試倍率や国家資格試験の合格者を担当の先生方と議論するために毎月一度は必ず来ていた。今年度は他にプライオリティの高い課題



があり足が遠のいていた。

奥野前学長が「今後の地域包括ケアでは、看護・リハ・福祉が不可分」ということではじめたユニークな地域保健学域。病気を治すことだけでなく、病気にならぬように予防する、病気になっても少しでも以前に戻るようにする、体調を崩した方の社会復帰（教育が不可欠）を支援するということが、人生 100 年時代では不可欠だと思う。

教授会での話を聞いていると、コラボレーション論や人間支援論など 3 学類共通の講義（座学だけでなく、アクティブラーニング）の質がどんどん高くなってきていることがわかる。この学習の場の大切さは、従来の学問分野の固定観念にとらわれてはなかなか分からない。

標記につきまして、本学新卒者の合格状況の集計ができましたので、速報として取り急ぎご報告いたします。

	新卒 受験者数	新卒 合格者数	新卒 合格率	全国合格 率 (新卒)	全国合格 率 (既卒含む)
看護 師	117名	117名	100%	94.7%	89.3%
保健 師	25名	25名	100%	88.1%	81.8%
助産 師	10名	10名	100%	99.9%	99.6%

### 3月22日 祝 看護学類国家試験 三分野 新卒 100% 合格

嬉しいニュースが届いた。本日発表だった、看護師、保健師、助産師についてすべて 100%合格ということだ。

合格した皆さん、指導いただいた先生方、サポートしてくださった職員の方々、皆さんおめでとうございます。また、府大の名前を高めて頂きありがとうございました！！

先日、上野研究科長が「できることはすべて行った。神社への神頼みにも詣でた」というお話をされていた。I-site なんばで試験勉強をしている学生をみかけた。市大の図書館で勉強した学生もいたと聞いている。特に看護師の 117 名も受けて、2 年連続全員合格というのはすごい数字だと思う。口コミでも SNS でもいいので、皆でこの素晴らしさを広報しよう。

### 3月23日 I-site なんばの思い出

22日に今年度最後の経営会議・役員会・基金委員会があり、I-site なんばに出かけた。ここには、私の著書も陳列してもらっていて、アカデミックカフェのときの写真も置いて頂いている。

本のない図書館として、ここで始まった「まちライブラリー」の全国フェスタ、大阪検定1級を取得者の研究報告会、高校生英語パラメントディベート全国大会、経済学研究科社会人大学院での講義、工学（松永先生）・理学（松坂先生）・生命（北村先生）・経済（辻先生）・人社（瀬田先生）などの先生方が主催されたいろいろな国際会議、リハの履修プログラムのイベント、看護の学会、校友会の総会・理事会、公大協の職員研修の講義、保護者のための就職ガイダンス、学長・記者懇談会など実にいろいろなイベントで使った。多くの人と出会いで鼓舞され（Inspire）、出会いが新たなアイデアを産み（Integrate）、そして、新しいことが始まった（Initiate）。



奥野学長が「I-site なんばはローマ字読みすると『愛してなんば』、漢字で書くと『愛妻となんば』。三つの『I』を込めて名付けた」と紹介して、開所式をしたのが昨日のように思われる。今思えば、週末、頻繁に嬉しい誘いを受けて、呼び出されていた。

### 3月24日 学長顕彰

去る19日、学术交流会館にて、団体：1組、個人：46名の計47組を顕彰した。表彰状をお渡しするときの笑顔が皆素敵だ。「府大に来てよかった」と思ってもらえればと



いつも願っていたところ、答辞を述べてくれた片山さん（理学系研究科）の文章が素敵だったので、指導教員の中瀬先生とご本人の許可を得て、ここに掲載させていただく。

私は、得意ネタの一つの「カンボジアで見た流れ星」から「お月様を見たら夢を」という話をしたので、答辞の「月を見て」というのは、当日アドリブで入れてくれたのだと思う。



-----片山さんの答辞-----

本日は栄えある賞を頂きまして、まことに有難うございます。受賞者を代表しまして一言御礼の言葉を述べさせていただきます。

学長顕彰の受賞対象となったバイオメディカルフォーラムでの発表賞受賞は私にとって、誠に感慨深いものでした。学生生活最後の学会発表で、研究発表の賞を頂けて、達成感と感謝の気持ちでいっぱいでした。日々の研究活動は決して私一人でするものではなく、共同研究者の先生方を始め、日々ご指導を賜りました中瀬先生、研究室の仲間の協力と支えがあつてのものです。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。



また、私はこれまで研究を軸に様々な貴重な経験を得ました。思い返せば学部3年生の後期に念願の中瀬研究室への配属が決まり、ピペットマンの使い方も分からないまま、さっそく研究テーマが与えられ、4年生に上がるとすぐに国際学会で発表する機会を頂きました。



英語での発表に苦戦し、質疑応答では質問を聞き取ることもできませんでしたが、プロフェッショナルの研究者達の討論を目の当たりにして、私もいつかこの人達とディスカッションできるようになりたいと思うようになりました。

そんな折、トビタテ留学ジャパンの募集案内の看板が目に入りました。多くの方々に申請書添削の依頼や、面接の練習に付き合ってもらい、イギリスでの研究留学の切符を手にすることが出来ました。たった3ヶ月間でしたが、私にとっては大きな挑戦でした。私を知る人が全くいない土地で新

たに自分の居場所を作っていくことが、新鮮で楽しく、時に辛いこともありました。普段どれだけ周りに支えられて、助けられているのかを実感し、同時に現地の方々の優しさにも触れました。新天地でチャレンジするうえで大切なこと、それはオープンマインドになることでした。他人に対してだけでなく、自分に対してもオープンになること。自分の弱さと向き合い、受け入れ、そして誰かに助けを求めること。これが重要であると感じました。それが分かってからは、イギリスでの研究生生活は充実していきました。

(この留学中に実現したいとより強く思うようになった目標があります。)最後に、月を見てほしい目標があります。それは日本の研究、技術を世界へ結びつけること、基礎研究の成果を産業に結びつけることです。そのファーストステップとして企業の知的財産部で働くことに決めました。新しい分野に進むことに不安や迷いもありますが、この度の受賞を励みに、世界に羽ばたく拠点、大阪府立大学から大きく羽ばたきたいと考えております。

これをもちまして、私の御礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

### 3月25日 私にとって最後の学位記授与式

例年通り、24日に学位記授与式を挙行了。少し風が冷たかったが、日曜日だったこともあり、例年より保護者の列席が多かったように思う。学長として最後の式ということで、妻と孫も来てくれた。二歳の孫は、式辞の途中で大泣きしたので、周囲の方にご迷惑をかけてしまった。

演台(大きな机)の大学名は生産技術センターが三次元プリンターで制作してくれたもの。そのほか、式を盛り上げるため、学類ごとに記念写真が撮れるように市松模様の背景ボード(と言っても模造紙に印字したもの)、会場前の幟(のぼり)など用意してもらっている。手話通訳もある。さらに、今回は、名簿にリーディング大学院修了者や副専攻修了者の氏名を掲載した。時間のないなか、準備にあたってくれた関係者に感謝する。

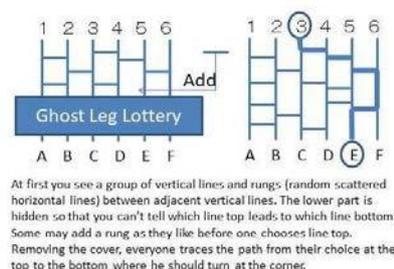
今回は、あみだくじを題材に式辞を創った。英語では、Ghost Leg Lottery という理由は分かるだろうか。

留学生には次の英文要約を配布した。式次第には、留学生の出身国と交流協定校の所在国・地域の国旗を掲載している。

#### ●Abstract of President's Address

Ladies and gentlemen! Congratulations on your graduation from Osaka Prefecture University. On behalf of the university, it is my great pleasure to give an address to memorialize this event. My address compares our life to Amida-kuji (It is also called ghost leg lottery as explained below).

Let me review my life. There were a lot of horizontal lines in Amida-kuji which shifted my life from one line to another. When I was young, I wanted to be a Mathematics teacher. However, I knew my capability was inferior to my friends when I was an undergraduate.





Changing my mind, I joined an electronic company in 1978. Although I wanted to be an engineer in the company, I was assigned to a research laboratory against my will. Similarly, my career continuously shifted from one line to another. Some of the lines were drawn by me with my strong intention and my capability. Others were drawn against my will by my advisers, bosses, seniors

and so on. Some were lucky and others were unlucky for me. Don't you have the same experience?

I am not sure if you joined OPU with your will or against your will. I am not sure if your campus life including study and extra-curricular activities were with your will or against your will. But I am sure there were visible changes in your life while you were in OPU. I would like to encourage you to compare your OPU life to Amida-kuji. I believe you will find a lot of horizontal lines which shifted your old line to a new line.

Let us regard our life as drawing Amida-kuji. I encourage you to add a horizontal line to your life in the future if you find a new goal. To do this, please continue to study even if you are a university graduate. I also encourage you to add a horizontal line to the life of others. To do this, please continue to improve your capability. You should be a positive influencer for them.

Once we add a line to “辛” which means “hardships”, it becomes “幸” which means “happiness”. I will be happy if you remember my message whenever you encounter hardships or draw any lottery.

Finally, if you have time, please feel free to come back to the OPU campus in the future. The OPU Sakura Festival in April and OPU University Festivals in May and November always welcome you. Thank you for your kind attention. Once again, congratulations on your graduation.

Hiroshi TSUJI, President of OPU      March 24, 2019

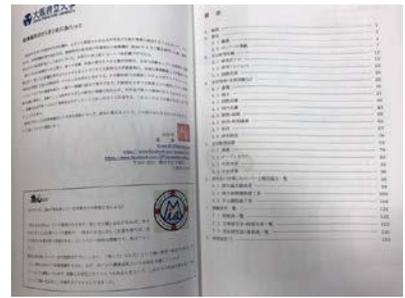
3月26日 研究室記録（年報）

医療看護情報システム研究室の学生さんが先日インタビューしてくれたが、その記事を掲載した同研究室の年報を頂いた。

2013年、私が理事に就任したときに同じ研究室に所属していた真嶋由貴恵先生と泉正夫先生が現体制をつくれ、以来、毎年頂いている。「凜」という名称で、内容が充実、装丁も立派で、まさに当時の運営を引き継いでいただいたと嬉しく思う。

私は、2014年に総集編として一度整理していたが、今回2019年版として改訂した。記憶しておくことは大切だ。今回は保存用として2部だけ作成し、過去の残部は断捨離する。



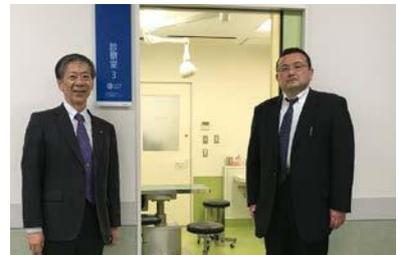


### 3月27日 りんくうキャンパスにお別れ

本学は、1883年に設立された獣医学講習所を創基（学校の基盤ができた時点）としている。今は生命環境科学域の中の獣医学類として長年の伝統をもち、教育・研究・地域貢献をしている。「世界に翔く地域の信頼拠点」としてふさわしい、関西空港ちかくのりんくうタウンにある。一学年の定員が40名なので、六学年あわせても240名。ここでの学生生活は少し寂しいかもしれない。

私は、学舎が移転するときに情報システム部長であり、ここのネット環境の議論などをしたのが懐かしい。その後、仕事だけでなく、獣医学の先生や学生と一緒に釣りに行くときの拠点（駐車場）としても利用した。獣医学類以外の教員や学生は訪れる機会がなかなかないので、今になって思えば、何かイベントなどを工夫できたかもしれない。

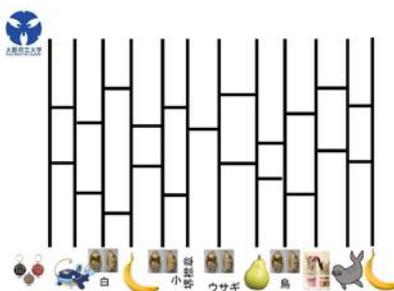
27日教員会議があったので離任の挨拶に出かけた。臨床センターでは嶋田先生と記念撮影した。あと府大での勤務は中百舌鳥キャンパスでの木曜と金曜だけになった。



### 3月28日 断捨離とアミダクジ

日頃愛用しているものもこの機会に別れを告げようと思う。ナマズの置物とカエルの信楽焼は昨日三人の方にお渡しした。30年来利用していたタイピンも三人の方に受け取って頂いた。汗まみれでいつ破棄していただいてもいいものだが、覚えておいていただければと思う。

最後の役員会を行って会食をしたので、研究室の会議机においていた果物の模型、ナマズやアザラシの人形、ナマズのキーホルダーなどはアミダクジを引いてもらって押し付けた。いずれも長年愛用していた私にとって宝物、単に見るとガラクタではある



が、先日の式辞が好評だったので、ちょっとした受け狙いで。これに限らず、重要な会議ほど笑顔で議論がはずむのがいいと思っている。

### 3月29日 退職辞令発令、名誉教授称号授与

年度末の29日、退職される教職員の方に辞令をお渡しした。また、学校教育法に基づき資格のある方に名誉教授の称号を授与した。退職者へのお礼の言葉の概要は以下の通り。長年のご勤務に心より感謝して、次の言葉を贈った。



-----

おはようございます。予報より桜の開花が遅れていましたが、この2、3日急速に開花が進んでいます、

さて、この桜の美しいキャンパスにおいて、教員21名、職員3名の方々に一つの区切りとしてのお別れでありお祝いを述べさせていただきます。みなさま、本日はご定年退職おめでとうございます。



来週から、現法人は新たに公立大学法人大阪として出発します。また、平成の時代も今年限りとなっています。この周囲が区切りであるときに皆様も一つの区切りをつけられることを皆さまはもとより、ご家族の皆様にも心よりお喜び申し上げます。どうぞよろしくお伝えください。

大学には、ここ数年、いろいろ困難な事案がありました。少子高齢化、国際的な競争の激化、東京圏への一極集中などを背景に今も多くの懸案事項が続いてあります。しかし、皆様のご尽力・ご協力によって、休日勤務・長時間勤務などの働き方が改善しつつあること、ピーク時に比べ入学試験志願者数が2000人減少していたのが、回復基調にあること、教員業績評価の結果活用策案がまとまったこと、今回ダブル選挙になっていますが、新大学構想の進展など、多くの課題解決をご一緒させて頂けたことと思います。

教員の皆様におかれましては、大阪府立大学の名誉を高めるための教育・研究・社会貢献にご尽力いただきました。大学や学生を思うが故に、時に執行部に厳しいご意見を頂くこともありました。ご不満を感じられることも多かったですと推察しますが、最終的には、我々執行部の決断・判断をご理解・ご協力いただけたことを心より感謝しています。

職員の皆様にも、教員からの要望と大学規程との板挟み、挑戦的にやりたいことと予算制約の板挟みなどいろいろな苦勞をおかけしたと思います。誇りある我が大阪府立大学の教員・学生の活躍をご支援いただけたことに感謝しています。

引き続き残っていただける方もおられますが、4月7日の花まつりには、ぜひ顔を出していただきたいと思います。友好祭・白鷺祭などのイベントなどにもぜひお越しください。今後とも健康に留意されて、「つばさ基金」へのご寄付を含め、引き続き本学のご支援をよろしくお祈いします。

### 3月30日 総合リハビリテーション学類国家試験3分野で100%合格

またまた嬉しいニュースが届いた。皆で喜びたい。

- 理学療法士 25名中25名合格



●作業療法士 21名中21名合格

●管理栄養士 29名中29名合格

私は数字はそのときの運不運もあるので、数字そのものだけでなく国家試験へ取り組む先生方の指導体制と指導プロセスを誇りたい。学長としてフォローできるのは体制がどうなっているか、プロセスがどうなっているかを繰り返しヒヤリングすることぐらいだが、総合リハビリテーション学類は「なるほど」と感心するぐらいよく工夫して頂いていると思う。

話を少し拡げて、二年前に大学評価学位授与機構の認証評価において、研究活動と地域貢献活動の両方で「極めて良好」という評価を得たが、そのときの理由が「体制とプロセスができています」ということだった。

私が大学運営でお願いしてきたのは、

- まず小さな組織で体制とプロセスを確立する
- よい事例をもとに全学に展開する
- 一度確立した体制とプロセスを自己改善する
- 自己改善することを繰り返す
- うまくいったことを広報する

という力をつけることだ。最後の広報については、先日学内に次のメッセージを出した。今回の快挙についても皆で広報してほしい。

-----

私の知るある民間会社には、かなり前に「宣伝部」というのがあった。宣伝は、自らの予算で自らが企画して製品を拡販するものだ。その後、弘報部（広報ではない）になった。弘報は情報の配信のみを意味し一方向的だ。つまり、人々に知らせるだけでよい。

それに対して、広報は、単に知らせるだけでなく、理解や協力を得られるようなお知らせであって、その結果としてメディアなどの目に止めることにより情報を広く世の中に伝えなければならない。双方向性も大切だ。だから、今では「広報部」と言うのが普通になっている。

私は、府大関係者全員が府大・高専のアンテナであってほしいと思う。教職員はもちろん、学生も卒業生も保護者も府大に関係をもった全員がアンテナであってほしい。府大・高専の情報をキャッチするアンテナであり、その情報に読者にとって価値があるようにして、ポストするアンテナであり続けてほしい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

3月31日 2期4年間お世話になりました。

とうとう最終日になった。学長になって翌年の1月から、続けてきたfacebookへの投稿もこれを最後にする。3年3か月弱毎日書いてきた。しばらくは参照だけできるようにしておき、数か月後には閉鎖する。

3月になってからもフォロー登録してくださる方がおられ、813人になった。少しでも大学の状況や私の考

えていることが伝わったのではないだろうか。コンテンツはほぼダウンロードしたので、整理して冊子か本にしようと思う（と宣言して自分を追い込んでいる）。



4月1日からは、新たに設置される公立大学法人大阪の理事として阿倍野勤務（阿倍野メディクス6階）になる。お近くにおいでの際にはぜひお立ち寄り頂きたい。メールアドレスは変わるが当面今のから転送される。

新法人は、大阪府立大学、大阪市立大学、大阪府立大学高専の2大学1高専を運用する。私の担当は「社会・学学連携、情報、高専」。大阪府立大学からは離れ、両大学からは等距離の立ち位置（例えば、教育研究評議会は両大学のものに出席、入学式は高専のみ出席）で、両大学が一緒に行うべき産学官連携、地域貢献、国際交流でシナジー効果が出るように貢献したいと思っている。

最後になりますが、このページは本学の広報課が全面的に支援してくれました。題材（場の設定を含む）、写真の撮影・提供だけでなく、文面のチェック、迅速な訂正・削除など毎日負担をかけました。彼らの支援なくしては、続けることはできなかったと思います。感謝してこの投稿を終えます。

